

「ASEAN次世代航空保安システム整備勧告」について

○ 「ASEAN次世代航空保安システム整備勧告」とは

日ASEAN交通連携プロジェクトの一つとして、ASEAN地域における次世代航空保安システム(CNS/ATM)の導入のための、日本とASEAN共通の勧告方針。

<概要>

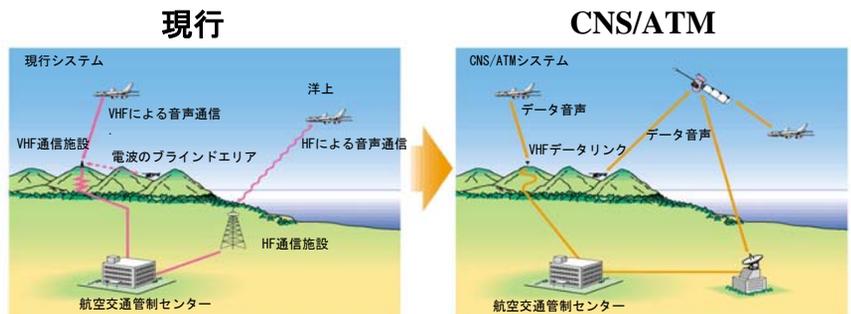
- ・ 2005年に第3回日ASEAN交通大臣会合にて採択された日ASEAN次世代交通保安システム整備共通計画を受け、国別の通信・航法・監視システムの整備計画、航空交通管理システム構築のための検討、衛星を利用したデータリンクの導入計画、人材育成についての今後の方針をとりまとめたもの。
- ・ 特に、人材育成では、フィリピンのマニラ航空保安大学校にて、ASEAN各国の担当者を対象としたCNS/ATM基礎研修を実施する。

○ 次世代航空保安システムとは

国際民間航空機関(ICAO)が2010年を導入目標として提唱したものであり、衛星等の技術を利用することにより、通信・航法・監視／航空交通管理の能力を高め、増加しつつける航空交通量に対応可能とするもの。

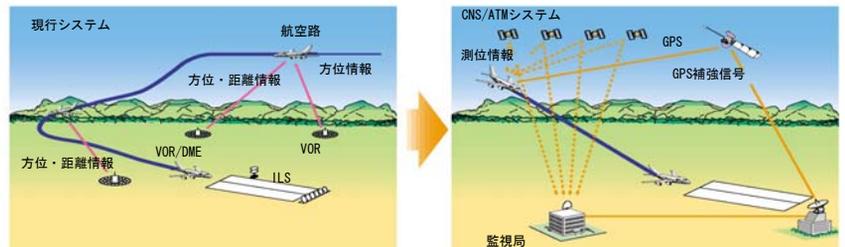
通信(Communication)システム

衛星通信を利用し、高品質な音声及びデータ通信機能を提供するシステム



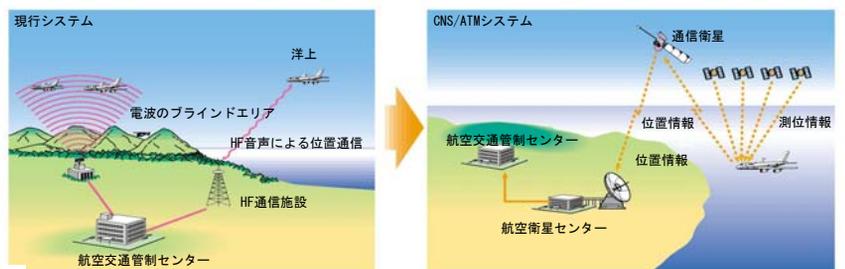
航法(Navigation)システム

GPS等の測位衛星と、その精度及び信頼性を補強するシステムを用いることにより、グローバルな航法サービスを提供するシステム



監視(Surveillance)システム

衛星データリンクを利用し、航空機の位置を洋上管制を行う管制官のディスプレイに表示するシステム



運輸多目的衛星(MTSAT)

我が国が2005年及び2006年に打ち上げた運輸多目的衛星(MTSAT)は、通信・航法・監視の機能を提供し、広くアジア太平洋地域をカバーするため、ASEAN地域への次世代航空保安システムの導入に貢献することが可能である。